17　　西行の災難　　　　　　　　　文法　助動詞②　つ・ぬ

読解　心情の理由をつかむ

伏見中納言と言ひける人のもとへ、西行法師行きて訪ねけるに、あるじはきひたるほどに、侍のでて、「何事言ふ法師ぞ」と言ふに、にかけて居たるを、「しかる法師の、かくれがましきよ」と思ひたる㋐けしきにて、侍どもみおこせたるに、の内に、の琴にてをひきすましたるを聞きて、西行、この侍に、「物申さん」と言ひければ、①「憎し」とは思ひながら、立ち寄りて、「何事ぞ」と言ふに、「簾の内へ申させへ」とて、「②ことに身にしむ秋の風かな」と言ひ出でたりければ、「憎き法師の言ひ事かな」とて、かまちを張りⓐてけり。西行、はふはふ帰りてけり。

後に、中納言の帰りたるに、「㋑かかる痴れ者こそ候ひつれ。張り伏せ候ひⓑぬ」とかしこ顔に語りければ、「西行にこそありⓒつらめ。ふしぎのことなり」とて、③心憂がられけり。

語注

伏見中納言＝源。

西行法師＝平安時代後期の僧。歌人。管弦の道についてもがあった。歌集に『山家集』がある。

箏の琴＝弦楽器の一つ。琴。

秋風楽＝雅楽の曲名。季語は秋。

基本古語

怪し（形シク）＝あやしい。

おこす（サ下二）＝よこす。送ってくる。

【原文】

　伏見中納言と言ひける人のもとへ、西行法師行きて訪ねけるに、あるじは歩き違ひたるほどに、侍の出でて、「何事言ふ法師ぞ」と言ふに、縁に尻かけて居たるを、「怪しかる法師の、かく痴れがましきよ」と思ひたるけしきにて、侍ども睨みおこせたるに、簾の内に、箏の琴にて秋風楽をひきすましたるを聞きて、西行、この侍に、「物申さん」と言ひければ、「憎し」とは思ひながら、立ち寄りて、「何事ぞ」と言ふに、「簾の内へ申させ給へ」とて、「ことに身にしむ秋の風かな」と言ひ出でたりければ、「憎き法師の言ひ事かな」とて、かまちを張りてけり。西行、はふはふ帰りてけり。

　後に、中納言の帰りたるに、「かかる痴れ者こそ候ひつれ。張り伏せ候ひぬ」とかしこ顔に語りければ、「西行にこそありつらめ。ふしぎのことなり」とて、心憂がられけり。

問一　次の「内容わしづかみ」の空欄に本文中の語句を書き入れよ。

［　　　　　　　　］は伏見中納言のもとを訪ねたが、不在であった。自分を［　　　　］つける侍をよそに、西行は聞こえてきた［　　　］の音を主題に歌を詠むが、侍に横っ面を張られ帰ってしまう。侍は得意顔（＝［　　　　　　　　］）で報告するが、中納言は残念がった。

問二　波線部㋐・㋑の意味を答えよ。〈3点×2〉

㋐〔　　　　　　　　　　〕

㋑〔　　　　　　　　　　〕

問三　二重線部ⓐ～ⓒの助動詞の文法的意味と活用形を答えよ。〈3点×3〉

ⓐ〔　　　　〕〔　　　　形〕

ⓑ〔　　　　〕〔　　　　形〕

ⓒ〔　　　　〕〔　　　　形〕

問四　［チェック問題］助動詞②　つ・ぬ

(1)　次の活用表を完成させよ。〈1点×2〉

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| ぬ | つ |  |
|  |  | 未然形 |
|  |  | 連用形 |
|  |  | 終止形 |
|  |  | 連体形 |
|  |  | 已然形 |
|  |  | 命令形 |
|  |  | 接続 |

(2)　次の傍線部の文法的意味と活用形を答えよ。〈2点×3〉

1　かうこそ燃えけれと、心得つるなり。（宇治拾遺物語）

2　舟こぞりて泣きにけり。（伊勢物語）

3　咲きぬべきほどのこずゑ、…（徒然草）

1〔　　　　〕〔　　　　形〕

2〔　　　　〕〔　　　　形〕

3〔　　　　〕〔　　　　形〕

問五　傍線部①とあるが、侍はなぜ西行を「憎し」と思ったのか。二十字以内で答えよ。〈12点〉

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問六　傍線部②の解釈として最も適当なものを選べ。〈6点〉

ア　優しい言葉をかけられて、かえって秋風が身にしみます。

イ　琴の音に心が和み、身にしみる秋風にも耐えて旅を続けられます。

ウ　ますます秋風が身にしみるのも、い言葉を聞かされたからです。

エ　格別に秋風が身にしみるのも、あなたの琴の音のせいでしょう。

〔　　　〕

問七　傍線部③とあるが、なぜ中納言はこのように思ったのか。最も適当なものを選べ。〈9点〉

ア　西行とは知らず、家人の下手な琴の音を聞かせてしまったから。

イ　西行が来ることを忘れていて、うっかり外出してしまったから。

ウ　侍が歌の情緒を解さずに、西行を追い返してしまったから。

エ　自分の留守中に、侍が勝手に西行と歌を詠み交わしていたから。

〔　　　〕

【解答】

問一　西行法師／睨み／琴／かしこ顔

問二　㋐＝様子　㋑＝このような〈3点×2〉

問三　ⓐ＝完了・連用形　ⓑ＝完了・終止形　ⓒ＝強意・終止形〈3点×3〉

問四　(1)〈1点×2〉

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| ぬ | つ |  |
| な | て | 未然形 |
| に | て | 連用形 |
| ぬ | つ | 終止形 |
| ぬる | つる | 連体形 |
| ぬれ | つれ | 已然形 |
| ね | てよ | 命令形 |
| 連用形 | 連用形 | 接続 |

(2)　1＝完了・連体形　2＝完了・連用形　3＝強意・終止形〈2点×3〉

問五　縁側に腰掛ける無礼な態度をとったから。（19字）〈12点〉

問六　エ〈6点〉

問七　ウ〈9点〉

【現代語訳】

伏見中納言と呼ばれた人のところへ、西行法師が行って訪ねたが、（その家の）主人は行き違いになったので、（仕える）侍が出て、「何を言う〔＝どんな説法をする〕法師であるか」と言うと、（西行が）縁側に尻をかけて座ったのを、「変な法師が、このように馬鹿げたことをしていることよ」と思っている様子で、侍たちが（西行法師を）にらんでいる時に、簾の内で、箏の琴で秋風楽を美しく弾いているのを（西行が）聞いて、西行が、この侍に、「もしもし」と言ったので、「気に入らない」とは思うものの、近くへ立ち寄って、「何事か」と（西行に）言うと、「簾の内へ申し上げさせなされ」と言って、「（あなたの弾く琴の音のせいで）格別に身にしみる秋の風だなあ」と、口に出して言ったので、「不愉快な法師の言うことであるよ」と言って、横っ面を張ってしまった。西行は、あわてふためいて帰ってしまった。

後で、中納言が帰った際に、「このような馬鹿者がおりました。張り倒しました」としたり顔で語ったところ、「きっと西行であっただろう。感心できないことだ」と言って、残念がっていらっしゃった。

【補充問題】

問１　①「言ひ出でたりければ」（６行目）、②「かまちを張りてけり」（６行目）の、それぞれの動作の主体を、本文中の言葉を用いて答えよ。

問２　「憎き法師の言ひ事かな」（６行目）と思ったのはなぜか。最も適当なものを選べ。

ア　不審な法師が無遠慮に和歌を詠みかけたから。

イ　不審な法師がいつまでも帰ろうとしなかったから。

ウ　不審な法師の詠んだ和歌がよい出来ではなかったから。

エ　不審な法師が主人を無視して和歌を詠んだから。

【補充問題解答】

問１　①西行　②（この）侍

問２　ア